

も学者も一致して景気の先行きを悲観していたが金子は一人楽観的である。根拠は干支である。

「それは外でもない。今年は実に兎の年である。兎というものは、上へ上へと向上する一方である。鉄砲を向けても決して横に外れたり、下の方に隠れたりせずに、どこまでも、上の方に上の方へと飛んでゆく。…今年の財界はいよいよ上向きに転ずるに違いないと、こう大ざっぱな観測を下している」

金子は「まず図表を見ていただきたい」と三角形を描き、三辺を二分割して十二支をあてはめながら講釈に力が入る。その詳細を記す紙幅はないが、本丸が落城に瀕しながらも、「鈴木がこける時は日本がこける時だよ」と、気にとめる風もなく持論を繰り広げる。明治維新以来の経済事象と兎年の歩みを重ねながらの「卯年好景気論」は何時しか人々をその気にさせるのだから不思議だ。二カ月後の経営破綻など頭の片隅にもないようである。

## 豪州人に惹かれた金子直吉翁

金子直吉翁は昭和十九年（一九四四年）に亡くなって今年で七十年になります。鈴木商店のOBの親睦団体辰巳会は五月に神戸ポートピアホテルで七十年祭が行われます。

昭和五十三年十月の神戸新聞にオーストラリア人のインタビュー記事がありました。その人はなかなかの日本通でグリフィス大学で日本史を教えるロバート・D・ウォルトンさん。ウォルトンさんはなぜ鈴木商店の金子に惹かれたのかに記事では「総合商社の歴史といえば、三井、三菱が頭に浮かびます。けれども財閥銀

行を後ろに持たない鈴木生成こそ日本的です。近代国家へのすばらしい脱皮。明治・大正の時代の、彼はまさに日本のシンボルでしょう。貧乏で信用もない。その彼が砂糖と樟脳から事業を興し、エントツ男の異名どおり人絹や人工硫酸といった新技術を導入しました。普通の人よりきびしく、そして親切に…というキャラクターはマネができません。」

長秘密はあくまで、金子が代表するよう個から生まれています。いま、サラリーマンは組織の中で自信を失っているみたい。組織にがんじがらめになっても、独立をめざす覇気がほしいんです。もっと胸を張るべきです。」

ウォルトンさんの「あのころは個の時代」平成のこの時代になって若い起業家が輩出しています。それにしても直吉翁はいかに巨大な「個」であったのかを知ることです。

このインタビューは辰巳会本部（太陽鉱工内）で幹事の柳田義一さんが応対されて行われました。

（記事引用 神戸新聞 昭和五十三年十月十三日）

## 辰巳会だより

### 辰巳会 本部総会

平成二十四年五月二十三日（水曜日） 正午  
於 神戸ポートピアホテル  
南館四階「レヴァンテ」

今年の会場は昨年同様の港島の神戸ポートピアホテルでの開催です。本日の開始に当り司会者の話があり、例年五月は辰巳会の全国大会として開催していますが、辰巳会発足から五十二年になり会員数が相当数減少して、神戸本部、東京支部の他に北は北海道から南は九州までの四支部の会員はほとんどが他界されました。それ故、四支部は残念ながら昭和の時代で自然解散しています。本来、本日の辰巳会は全国から出席される大会の催しですが、出席者はほぼ関西在住の皆様になり、東京支部の皆様もご高齢から出席が難しくなっています。本日の開催要領に全国大会の名が消えていることの説明がありました。

この後、例年の会務報告は司会者から、五月十四日祥龍寺で幹事参列のもとに物故者法要が執り行われ、物故者二名の方が過去帳に記載され、総数一二二〇名にわたることが報告されました。

宴を始めるにあたり柳田辰巳幹事のご発声で一同乾杯をして会食と

なりました。

今回初めての出席になる三名の紹介があり、東京の鍋島高明様は来月より高知新聞に金子直吉を基にした鈴木商店を連載されることになり、これに関連したお話をされました。

■スピーチ  
鍋島高明 様

市場経済研究所会長

毎週書かれているコラムのことから、出光佐造は明治四十二年に神戸高商で鈴木商店を受験したが高畑誠一、永井幸太郎には早々と合格通知がきたけど出光佐造にはこないこと、で、わずか三人の酒井商店に入り、その後で合格通知がきたけど決めた約束を守り鈴木にはいかなかった。もしも鈴木に入っていたら面白いドラマがあったのではないかと思う。出光は鈴木と同じように株を公開せ

平成二十四年度  
辰巳会本部総会御出席者名簿  
（順不同・敬称略）

安東 浄	中 宏
池田 泰雄	中村 裕
今村 三郎	矢倉 慎吾
扇谷 勉	西村 昌彦
扇谷 睦	王鞍 延子
大谷 淳子	大塚 融
小野 晶子	井上 常子
楠瀬 正明	小宮 由次
鈴木 孝子	前田 章賀
高畑 美紀	鍋島 高明
東條 佳子	二十四名
松下 重男	（事務局）
柳田 辰巳	金野 和夫
貴答 恵子	貴答 祥子